

1 令和7年度事業実績報告

(1) 公益財団法人竹田市文化振興財団としての使命

令和3年2月5日に設立した一般財団法人竹田市文化振興財団は、令和4年4月1日、大分県（知事）から公益認定書を受領することになった。一般財団法人発足1年にして、公益財団法人に移行できた意義は大きい。

竹田市総合文化ホール《グランツたけた》は平成30（2018）年10月7日に開館した。開館以来、竹田市直営方式で運営してきたが、2年半後の令和3（2021）年4月1日から一般財団法人竹田市文化振興財団による指定管理方式に変更した。運営方式は変更したものの、開館以来の管理運営方針は踏襲し、しかも同じスタッフによる運営が継続している。新型コロナ・ウイルス感染症が拡大する時期においても、万全な体制を取りつつ積極的な事業を展開するなど、運営実績が高く評価された証といえる。

令和7年度は公益財団法人として竹田市総合文化ホール《グランツたけた》の4年目の指定管理となる。公益財団法人としての使命と社会的責任を強く自覚し、ガバナンス（よい統治・組織）、コンプライアンス（法令順守）、トランスペアレンシー（透明性）などを向上させることに取り組んだ。そのために、竹田市民に対する説明責任を果たすために情報公開に努めた。

(2) 竹田総合文化ホール《グランツたけた》の指定管理事業

- ・指定管理期間：令和3年4月1日～8年3月31日 ※令和7年度は5年目。
- ・指定管理者である財団法人が行う業務

下記の4項目が規定されている（竹田市総合文化ホール設置条例第18条）。

- ① 《グランツたけた》の利用の許可に関する業務
- ② 施設等の維持管理に関する業務
- ③ 事業の企画及び実施に関する業務
- ④ その他、市長が必要と認める業務

竹田市文化振興財団は、《グランツたけた》を管理運営するにあたり、竹田市が策定した管理運営基本計画（平成28年6月）及び管理運営実施計画（平成29年6月）の基本コンセプトならびに、第2次竹田市総合計画（令和5年3月）を踏まえ、竹田市民の多彩な文化芸術活動、人々の交流、生涯学習を通じて、竹田市の魅力を高め、内外に情報発信し、まちを活性化させる「まちづくりの拠点」として地域社会の健全な発展に貢献することをめざして業務にあたった。

ア 施設の利用・維持管理に関する業務

① 施設の適正な利用及び利用者への便宜供与に関する業務

施設の利用に関しては、公平・平等かつ適正に行い、施設等の利用料金は、竹田市総合文化ホール設置条例（第19条）の規定に従い、条例が定める使用料の額の範囲内において、市長の承認を受けて適正な金額を定め、支払いについては利用者

の便宜を図る。あわせて積極的な広報活動により、施設の利用促進に努めた。

施設等の利用料金については、当面、条例が定めた使用料の額と同一とするが、施設利用者の要望等に応えるために、新たな利用区分料金の設定などを検討する。

◆利用者の声の反映・自己評価

利用者に対して聞き取り調査やアンケート調査の実施などにより、利用者からの意見や要望の聴取に努め、施設案内図の入口設置など施設の管理運営の改善に反映させた。

また竹田市文化振興財団の自己評価として、上記利用者アンケート調査の結果や自主事業の来場者アンケート、市民による事業モニター調査を実施し、管理運営や事業計画の改善に努めた。

◆施設の利用促進

ホール稼働率（全国平均56%）の目標指標65%達成（廉太郎ホール・キナーレの平均67.6%）を目指し、営業による平日利用の促進や練習室利用者にホールを利用してもらう仕組みづくりを検討する。開館から6年半が経過し、固定した利用客も多くいることから、「利用者の声」を広報誌やメールマガジン、DM等の各媒体に紹介していく。あわせて、新規利用客の開拓のために、広報活動の積極的な展開や県内外まで広く営業活動を展開した。

稼働率の向上は施設利用料金収入とも直接かかわってくる。財団法人経営の安定的運営のためにも施設の利用促進に努めた。

◆施設利用者の便宜供与

ホール等の利用に不慣れな利用者のためにスタッフが全面的にサポートする。また、休館日の臨時開館や利用時間の延長等にも柔軟な対応を行った。

② 施設の維持管理に関する業務

施設の維持管理に関しては、設備・備品管理業務、警備・清掃業務等を専門の業者に委託し、クオリティとコストの両面でレベルの高い施設管理を行う。とくに委託金額の設定については、指定管理期間5年という長期期間のメリットを生かし、原則として5年契約を締結することで安価なコストが実現できた。また、5年間一定した契約額となったことにより今後の物価上昇等に影響されることなく、長期的な経営見通しを立てることができている。

今後もより質の高い維持管理が達成できるように専門業者との品質管理協議を徹底したい。

◆建築物及び建築設備の維持管理

的確な保守点検により、施設、設備の正常な性能を維持するとともに、竹田市との協力体制のなかで、所要の修繕を行った。

◆備品等の維持管理

備品については、備品台帳の更新に努め、適正に管理した。

◆芝生等の維持管理

ホール周辺の芝生や樹木等については、景観にも大きく影響することから、適正に管理した。専門業者への委託のほか、市民ボランティアの協力を仰ぐことも検討

し、市民に「私たちのホール」という意識を醸成することにつなげたい。

◆保安警備業務

職員が不在となる夜間（午後10時～翌朝8時30分）は、専門業者による機械警備を行なうとともに、不測の事態に対応できるように職員連絡体制を取った。

◆清掃業務

施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を行った。

③ 防災意識の醸成・危機管理対応の取り組み

東南海・南海地震の発生が想定されており、危機管理対応マニュアル・消防計画をもとに、職員を対象とした防災・火災訓練等に加え、夜間管理人等にも参加してもらうことで、より実態に即した訓練を実施した（令和8年2月9日実施）。

地震以外にも、ホールの管理運営には多くのトラブルが起きることが想定される。そもそもホールは、地域に開放された大規模集客施設であり、不特定多数が利用する。建物自体も特別な構造で、舞台機構や舞台用設備、備品等を多く抱える「危険な空間」である。事務局職員をはじめ、舞台技術や清掃等の様々な業者が管理運営にかかわっており、総合的に管理するための情報共有は極めて重要である。これまで起きたトラブル例や他館での事例をもとに、危機管理・リスクマネジメントに関する職員研修を行った。

また、感染症拡大予防対策への対応には万全の体制を取る。

④ ユニバーサルデザイン・安全衛生・特別対応の推進

障がい者や高齢者、幼児、妊婦、外国人など、誰もが気軽に、かつ快適に施設利用できるための環境整備と運営に努める。とくにコンサート等の事業実施前には、ボランティアスタッフを含めたミーティングのなかで、特別対応しなければならない事項等を全員で共有し、トラブルの未然防止に努めた。

あわせて、日頃から人権に配慮した意識啓発に関する職員研修を行った。

イ 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

① 計画的な広報事業の展開

年間広報計画を策定し、チラシやポスター、広報誌、イベントカレンダー、ホームページ、Facebook、Instagram、友の会メールマガジンなどの自主媒体広報のほか、竹田市報、ケーブルテレビ、マスコミ等への積極的な情報提供によりメディアを活用した広報活動、動画などを積極的に取り入れた情報発信に努めた。事前のお知らせ広報のほか、事業終了後に速やかに報告することで、ホールに来ることができなかった市民への周知を図ることができた。

7年度は引き続きけたケーブルテレビに番組企画提供を行うとともに、OBS 大分放送ラジオ番組に対してスポンサー契約を行い、定期的にイベント情報や竹田市の文化芸術情報などをお届けするなど効果的な活用を行った。

② 総合的な情報発信

これまでコンサート等に参加した方からいただいたアンケートには継続的な情報提供を受けたい旨の要望があり、《グランツたけた》のコアなファンへ向けた広報の一環として「グランツ友の会（グラとも）」が発足。定期的な情報発信を行ってきた。また、グランツが質の高い事業を行っていることを「人から人へ」伝えていく口コミ情報は重要なアイテムであるため、特に文化事業関係各所への企画説明と協力依頼を丁寧に行った。そのほか事業ごとにターゲットを設定し、そこに向けた手法で効果的に情報提供にも努めた。来場者アンケートなどを活用した集客状況の把握・分析を適時行い、組織全体で情報共有して対応していきたい。「グランツの良さを人にも伝えたい」と思っていただけのような仕掛けづくりも大切である。そのためにも公演に来場していただいた方、チケットを購入していただいた方に感謝を示し、気持ちよく鑑賞していただくとともに、さらにまた来たいと思っていただけのように努力をしていく。

そのほか、豊後大野市を中心とした近隣都市、また大分市や佐伯市などからの誘客にも力を入れ、他館連携や竹田市との協力のもとに広域での情報発信に努めていきたい。

（３）芸術文化に関する自主事業

ア 芸術文化の拠点づくり事業

① ネットワークづくり

事業の実施にあたっては、竹田市文化連盟、竹田市内の商店街や商工会議所、商工会、まちづくりたけた株式会社などの各種団体、小中学・高校などの教育機関、医療・福祉機関など、多くの関係機関と連携することで情報発信の効果が出てくる。

また他機関連携・他産業連携の効果は、相互に効果を生み出すことにより、地域産業の発展に貢献することにつながる。

コンサート時にはマルシェの開催も利用者に好評である。テーマに合わせて出店者を募り魅力的な料理や商品を提供いただく。業者にとっても利用者にとっても喜ぶ企画であり、グランツの賑わいづくり、人との交流につながる。

② 公立文化施設とのネットワークづくり

公益社団法人全国公立文化施設協会や大分県公立文化施設協議会に加入し、劇場・音楽堂等が抱えている課題解決の方策を研究するとともに、国が今後導入しようとする研究課題・研究成果を共有できる。とくに《グランツたけた》のような人口規模が小さく、なおかつ高齢化率の非常に高いまちのホールの在り方を検討するためには絶好の材料である。また他市・他館連携により、自主事業を共同開催することで事業費圧縮になり、文化庁等の補助金獲得にもつながる。

これらを実現するためにも積極的な交流や情報交換を行うことが肝要であり、７年度は公立文化施設協会オンラインミーティングの運営委員として参加したほか、自己評価の一環として「ピアレビュー」を実施した。九州圏内にある、地域や事業内容、

館の規模などが似た劇場の実務者（ピア）に率直な意見を伺うと共にアドバイザーを介した課題の把握や知識の共有などを行い、自己評価の一助にするとともに互いの研鑽の場としても機能させることで連携をより深めることができた。そのほか、県立劇場である iichiko 総合文化センターとの共催事業の実施を通じて文化芸術を介した交流・連携などにも努めた。

③ 地域・学校との連携による教育普及活動

竹田市教育委員会と連携し、市内各地に積極的に出向いて出張授業（アウトリーチ）等を展開する。小学生、中学生、高校生はそれぞれの年代によって感受性や情操等は異なる。生の演奏に触れる意味は大きく、それぞれの対象に合わせたコンサート等を提供する。令和4年度から竹田市内すべての小学校へクラシック音楽を届けているが、各学校で開催時期が徐々に定着してきておりスムーズな連携をおこなえるようになってきた。そのため7年度も開催を継続し、対象学年以外の子ども達に向けたサポート事業（GWS）にも目を向けてもらうよう教育機関への働きかけに努めた。また、ファシリテーター養成講座の一環として演劇アウトリーチを竹田南部中学校で実施した。昨年度から年に1校の中学校訪問を行っており、8年度も継続実施を予定している。

地域においては、竹田市内の荻・久住・直入地域が中心部から離れており、《グランツたけた》に来る交通手段も限られている。令和4年度から4地域での出前コンサートを定期的の実施しているが、こちらも継続して行うことで劇場へなかなか足を運べないシニア層のほか、小学校アウトリーチの保護者などに気軽に足を運んでもらう機会として、より気軽に音楽に触れあえるコンサートとなるよう普及啓発に努めた。

④ RENTARO 室内オーケストラ九州との連携

大分県初のプロオーケストラ・RENTARO 室内オーケストラ九州（旧 TAKETA 室内オーケストラ九州）との連携により、「音楽によるまちづくり」推進に努めた。

令和2～5年にかけて竹田市地域おこし協力隊とした活動したコントラバス奏者の森田良平氏が中心となり結成された室内オーケストラで、令和3年7月12日に竹田市を含む三者連携協定を締結。グランツたけたでの活動をきっかけに結成され、3年間演奏活動を行い、期間満了後の令和6年7月には更に1年間の更新を行った。《グランツたけた》では年間3回のコンサートを共催として実施したほかヴァルドグラス久住での福祉施設アウトリーチも実施した。今後も市民の豊かな人材育成と歴史文化の継承のため互いに活用していく。

⑤ 一般財団法人 TAO 文化振興財団との連携

竹田市久住町に拠点を構える「DRUM TAO」は世界観客動員数800万人を超える和太鼓パフォーマンス集団であり、野外劇場「TAOの丘」を竹田市久住町にオープンさせ、県内外から多くの観光客を誘致している。《グランツたけた》では、開館以来

「DRUM TAO」の正月新春公演が恒例となっているほか、令和3年度からは毎年春に新作プレビュー公演も行っている。全館利用し新作公演のための制作リハーサルを重ね、その成果を5月に新作舞台プレビュー公演として発表、国内外でのツアーを経て

1月に竹田へ戻ってくるというサイクルが定着しつつある。

TAO文化振興財団との連携は7年度も継続し、新作公演のための制作検討を行い、プレビュー公演を上演した。《グランツたけた》が新作発表の場となることが恒例化していくことで、世界に誇るエンターテインメント「DRUM TAO」が拠点とする劇場というブランディングを確立し、県外での認知度向上や更なる連携強化を図る。

イ 自主事業

① 鑑賞事業（鑑賞機会の提供、交流の促進）

文化芸術作品を観たり聴いたりする人、文化芸術に親しみ楽しむ人を増やしていくことを目指し、音楽を中心にミュージカルやオペラ、舞踊、演劇、落語、古典芸能など幅広い分野の文化芸術作品を鑑賞する機会を広く提供する。

令和7年度も継続して「グランツ音楽館」事業として、宮田大（チェロ）×大萩康司（ギター）、嘉目真木子（ソプラノ）、三原未紗子（ピアノ）、宮谷理香（ピアノ）、ブルームーントリオに依頼し、グランツたけたでのコンサートとともに小学校や公民館でのアウトリーチ活動を行った。

人が集まる機会を活用し、文化芸術を通じた新たなコミュニティが生まれ育つように、「耕す里の神楽舞」や「DRUM TAO 新春公演」などでのマルシェ開催など、「たまりばたけた」での音楽イベントなどを実施し地域の賑わいや交流を促進した。

多彩な作品鑑賞の機会を提供できるよう、市民への鑑賞機会を提供する活動団体やプロモーター、マスコミ等と連携し共催公演を行うほか、若者たちへの音楽文化の普及啓発のために公演内容によっては小中高校生無料招待などを検討する。

7年度は「グランツ音楽館」地域コンサートにおいて、該当アーティストが学校訪問した際に子どもたちへ向けて無料招待券を配布し周知を行ったほか、「瀧廉太郎顕彰コンサート」「市民創作劇プロジェクト」「グランツ映画館」においても対象年齢の子どもたちを入場料無料とした。

◆ 優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する

音楽（クラシック、ポップス等）、演劇やミュージカル、ダンス、古典芸能など、良質な作品を鑑賞する機会を提供する。鑑賞をより深めるため、公演に合わせて、作品解説やリハーサル公開などを行う。

7年度はグランツ音楽館リサイタル「宮田大×大萩康司 デュオ・リサイタル」において理事・寄付者・グラとも会員を対象としたリハーサル無料公開を行ったほか、グランツ映画館「侍タイムスリッパ」上映時には監督と出演者によるトークショーを行い、映画製作の裏側などを解説していただいた。

◆ 文化芸術を通してにぎわいや交流を生み出す

ロビーコンサートの実施や各種展示、ワークショップ、マルシェなど、多くの人が気軽に《グランツたけた》を訪れ、楽しめるようなイベントやコンサートを行い、公演を開催していない時にもにぎわいを創出する仕掛けをつくっていく。

7年度は事業に関連したマルシェの他、「瀧廉太郎顕彰コンサート」において瀧廉太郎にちなんだ菓子(但馬屋老舗)やグッズ(竹田市商工観光課)の販売、iichiko 総合文化ホールとの共催事業「おでかけクラシック」にて市民ラウンジでの無料コンサートなどを行い、来場者だけでなくたけのこ広場に集う家族連れなどにもアピールし、多くの方に利用をしていただいた。

② 創造事業(市民活動支援／参加体験事業／市民参加による作品創造／文化資源活用)

市民誰もが、文化芸術を身近に体験できる体験型事業や、気軽に参加できる参加型事業を展開する。

実際に舞台の上で演奏したり演じたりする市民の参加型事業のみならず、《グランツたけた》の運営やスタッフワークなどを体験できる機会などを設け、より多くの市民が《グランツたけた》に関心や理解をもち、活動を支援してもらえるようにする。子どもから高齢者まで年齢や属性などに関わらず、市民誰もが主体的に関わることができるようにした。また、竹田市の歴史、育まれた文化等を活かした事業を継続・発展させる。

7年度は「ファシリテーター養成講座」「フロントスタッフ講座」などで劇場の裏側の仕事(ワークショップ講師やフロントスタッフ)の内容を具体的に学び、運営する体験を行った。また、「市民創作劇プロジェクト」では一般市民が〈物語つむぎ隊〉としてスタッフと共に取材から同行し、戯曲形式の取材メモを提出。それが劇作家により採用され、本公演の場面の一部となった。

◆ 市民が文化芸術を体験できる機会を提供する

文化芸術を身近に感じ、より親しみを持つ機会を増やすために、市民体験型のワークショップや舞台芸術講座などを行う。(例：グランツ・ワークショップなど)

7年度も全9回のワークショップを行い、音楽だけでなく伝統工芸や演劇、神楽など幅広い分野の体験を市民へ提供した。また、今年度から「おいでよ、リトミック」をスタートさせ、竹田を中心に活動する音楽家を起用したワークショップを開催し、その後講師の音楽教室に入会する市民などが出ており、市民の文化活動の促進はもちろん地域の経済活動にも影響を与えることができた。

◆ 市民とともに作品を創造する

市民自らが作品を創造するプロセスに参加し、舞台に立つ側や舞台を支える側を体験する機会をつくることで、文化芸術の魅力を直接感じてもらう事業を実施する。

7年度は、開館10周年に向けての土台作りをスタートさせる。周年での大規模な市民創作事業を展開するうえで大切となる「市民自らが演じること」をコンパクトな形で展開し、これまで市民参加事業に集まった方々が継続して関わり続けられるようにするとともに、市民から物語の題材を募ることで“演じる”こと以外での創作への関わり方を提供する。

7年度は土台作り1年目として市民の取材に基づいた新作朗読劇を創造・上演した。公募で取材した市民のほか、衣裳提供として「大野竹田バス株式会社」に協力いただいたりエピソードの中に「有限会社エムナイン」が入っていたりと、竹田の企業や店舗の紹介などにもつながり、地域産業の利用促進にも効果があった。

◆ 竹田市の文化を活かした活動を行う

地域ゆかりの芸術家や文化遺産を活かし、竹田市の文化に対して理解を深める機会とする。「瀧廉太郎顕彰コンサート」では、廉太郎が所有していた楽譜や演奏会プログラムなどを基にして廉太郎が好んでいたであろう楽曲を紹介し演奏するほか、廉太郎の生きた時代や人となりを垣間見られるような事業を開催する。

このほか、瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭や瀧廉太郎記念全国高等学校声楽コンクールなど、竹田市の文化を発信する市民活動との連携を深める。

7年度は子ども合唱なども参加し市民がより廉太郎に親しみを感じてもらえるプログラムを実施した。未就学児無料としたことで幅広い方々に参加していただいたほか、日本テレビの全国放送にも取り上げられる機会があり地域の魅力発信の一助となることができた。

③ 施設提供事業（市民活動への支援）

文化活動を行う個人や団体を支援し、活動をより充実したものにするとともに、新たに文化活動を行う市民を増やすことで、地域の文化芸術活動の活性化を図る。市民自らが《グランツたけた》を活用した企画提案に対してサポートを行った。

新年度より新たに玉来川河川敷「たまりバたけた」の施設使用が開始されることに伴い、貸しスペースが4月1日より利用開始となったことから、竹楽の昼間の時間を活かした賑わい事業「たまりバたけた LIVE」を開催した。今後も既存施設の利用時に実施規模に応じた駐車場としての提供や、地域のイベント、軽スポーツ、ワークショップ等、屋外施設の新たな利用方法の提案を行う。また、市や協力関係にある事業者との協議を行い、地域の賑わいを創出するイベント開催に取り組む。

今後も施設提供を通して、市民の文化活動、生涯学習活動の場を充実させるとともに、竹田市の文化芸術の拠点施設として、市内各地域の既存施設はもちろん、近隣の文化施設等、様々な機関と連携し、今後も多様な交流を促進していく。

◆ 市民の文化活動を支援する

市民企画応援プロジェクトの実施など、文化活動を行う個人や団体を支援する。

7年度は竹田市民劇団おごめんの「演劇フェスタ in たけた」を開催した。県内各地から7つの団体が集まり、互いの作品を鑑賞したり観客と感想を伝え合ったりして交流を行うことができたとともに、イベント開催までグランツ職員が伴走支援することで制作業務についての育成にもつなげることができた。

◆ 市内公民館等との連携を図る

文化芸術の拠点施設として、様々な文化芸術関係機関との連携を図る。観光や商業、医療・福祉等のさまざまな団体と接点を持ち、事業を通して交流を促進する。

各地域の公民館等で行われている文化活動や生涯学習活動のネットワーク・ハブとなることはもちろん、地域の資源や人材を発掘し、地域の活性化を促すしかけをつくるコーディネートを行うことで、文化芸術の地域づくりを推進する。

7年度も継続して「グランツ音楽館」地域コンサートでの公民館連携を図った。公民館で実施される市民教養大学との連携も継続し、乳幼児から高齢者まで幅広い市民がコンサートを楽しむことができた。

④ 育成事業（普及・育成事業の実施、広報活動の実施、情報の収集と発信）

育成事業では、文化芸術に親しみ楽しむ人や、文化芸術活動を行う人材の裾野を広げていく。特に、次世代を担う子ども世代が文化芸術に親しむための事業を展開する。

アウトリーチ事業など、《グランツたけた》以外の場所において実施する事業も積極的に展開し、文化芸術活動に接点のなかった人、関心の薄かった人などにも文化芸術に触れる機会を届け、文化芸術の活動者・理解者・支援者などを増やしていく。

また、《グランツたけた》の利用者や支援者、鑑賞者の拡大を図るために、市民に施設や事業について周知する広報活動を積極的に展開する。

あわせて、市内や近隣の公演情報をはじめ、文化芸術に関する活動、人材、施設、設備、助成制度など、関連する様々な情報の収集を行ない、広く市民に提供する。

7年度は特に、自主事業だけでなく貸館事業においても劇場ホームページや市のカレンダー掲載などの情報発信に努めたほか、広報誌「グラ×わく」のコーナーで市民の文化活動を紹介するなどした。

◆ 文化芸術への関心を広げる

文化芸術に触れる機会をより多くの人に持ってもらうため、アーティストが学校や福祉施設などに出向いて、子どもから高齢者まで幅広い世代に音楽や演劇などの文化芸術に触れる機会を提供するアウトリーチ活動やワークショップなどを計画する。特に、《グランツたけた》にアクセスしにくい地域へ積極的に出向き、施設を訪れるためのきっかけづくりを実施する。

今年度は RENTARO 室内オーケストラ九州のメンバーが市内福祉施設であるヴァールドグラス久住の利用者に向けてアウトリーチコンサートを行った。コロナ禍で長期間当該福祉施設での実施が叶わなかったが、多くの高齢者が久しぶりのコンサートを楽しんだ。

◆ 文化芸術を通して人を育てる

竹田市の将来を担う子どもたちが文化芸術に親しむことで、地域への愛着や文化芸術への興味が育まれる。土壌育成のため、子どもを中心とした事業を展開する。

7年度も引き続き、年間通じて「GWS（グランツ・ワークショップ）」を展開し、音楽のみではなく、美術や演劇、伝統芸能など幅広い芸術活動に触れる機会を提供した。

◆ 施設や事業を周知し、経験を蓄積する

公演の周知や活動の参加者を増やすことを目的に《グランツたけた》の活動について広報を行った。今後も、施設の事業や活動に関する実施レポート（後パブリシティ）の充実、アンニアルレポートなどを活用したアーカイブ化に取り組み、《グランツたけた》への信頼度を向上させるとともに様々な文化芸術の情報にアクセスできるような仕組みを検討する。

◆ 情報を収集・発信し、文化芸術を通してまちづくりの拠点施設となる

市内外の文化芸術活動に関する情報を広く収集・発信した。市のまちづくりや観光、商店街、市民活動団体などに関する情報についても、あわせて集約していくことで、市の活性化につながるような中核拠点の役割に今後も務めていく。

ウ 友の会事業

竹田市全体の芸術文化の振興や自主事業の円滑化を図るため、「グランツたけた友の会（愛称 グラとも）」を立ち上げた。7年度以降も継続して、会員への公演情報提供などを行い、グランツのコアのファンの獲得やホールとファンとの絆をより強くしていく。

当初目標の会員登録100人を上回る197人（令和8年3月31日現在）の方が登録。登録者にはメールで毎月情報発信し、郵送では年4回チラシ・情報誌等を発送してきた。

（4）《グランツたけた》を担う専門的人材の育成

《グランツたけた》を担う専門的人材の育成を図る。「管理運営を担う人材」「公演などの企画制作を担う人材」「舞台設備・舞台技術を担う人材」として職員の専門知識を獲得するほか、助成金を活用し質の高い育成事業を幅広い市民に向けて展開することで将来グランツたけたの事業運営に関わるアーツスタッフを育成する。そのほか、マーケティングやファンドレイジング等にも能力を発揮できる職員の育成を図っていく。

多目的ホールでの軽微なテクニカル等を職員がおこなうなど、育成の成果がでてきているが、まだまだ課題があるのが、現状である。

（5）基盤強化事業の展開

公益財団法人のメリットの一つに、寄附金が受け入れやすくなる点が挙げられる。制度構築のため改めて寄附金取扱規程を制定したので、寄附者への特典に充てるほか、自主事業への魅力アップに資するものとする。

令和7年度は、法人・個人合わせて14件の寄附をいただき、グランツ自主事業に全額充当し、事業の充実を図ることができた。

また、寄附者には礼状及びコンサート招待状を送り、全ての事業が終了した後には使途状況並びに活動状況を報告書した。

2 評議員会・理事会の開催

- 令和7年5月20日、第1回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席9名）した。

議題

（第1号議案 令和6年度事業報告（案）及び決算報告（案）について

（1）事業報告

（2）決算報告

（3）監査報告

第2号議案 補正予算について

第3号議案 定時評議員会について

第1号議案、第2号議案、第3号議案について説明し、承認いただいた。

報告

（1）業務に関する報告

（2）今後の主な自主事業について

（3）寄附について

（4）財団職員について

- 令和7年6月13日、第1回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（評議員出席4名）した。

第1号議案 令和6年度事業報告及び決算報告について

（1）事業報告

（2）決算書

（3）監査報告

第1号議案について説明し、承認いただいた。

報告

（1）業務に関する報告

（2）令和7年度当初予算並びに今後の主な自主事業等について

（3）寄附について

- 令和7年9月10日、第2回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席8名）した。

議題

第1号議案 令和8年度自主事業ラインナップについて

第2号議案 指定管理者の応募について

第1号議案、第2号議案、第3号議案について説明し、承認いただいた。

報告

（1）活動報告及び今後の自主事業の状況について

- (2) 「竹楽」とのコラボについて
 - (3) 理事の辞任について
 - (4) 竹田市観光ツーリズム協会との連携について
- (TAKETA Ticket agency(通称：竹チケ))

●令和7年12月22日、第3回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席9名）した。

議題

第1号議案 令和8年度自主事業ラインナップについて

第2号議案 竹田市総合文化ホール市民ボランティアスタッフ表彰規則の
制定について

第1号議案、第2号議案について説明し、承認いただいた。

報告

- (1) 事業活動報告について
- (2) 竹田市総合文化ホール第2期指定管理について
- (3) 「グランツたけた来館者50万人」について

●令和8年3月17日、第4回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席8名）した。

議題

第1号議案 令和8年度事業計画案及び当初予算案について

第2号議案 「公益財団法人竹田市文化振興財団職員給与規程」の
一部改正について

第1号議案、第2号議案について説明し、承認いただいた。

・報告

- (1) 業務に関する報告について
- (2) 市民ボランティア等表彰規則について
- (3) 令和8年度財団事務局職員について
- (4) その他